

身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO 法人すいた市民環境会議

2012年4月 第80号

# 吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議 会長/小田忠文 ホームページ<http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日  
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106 中村小夜子 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 編集/会報委員会  
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便振込口座番号/00980-3-28845



## 目次

- 1.表紙
- 2.会長コラム 表紙の絵
- 3.生活環境ニュース エコクッキング
- 4.紫金山公園 野草観察会
- 5.ツバメの巣マップが単行本に引用  
山田の大木と円照寺のヤマザクラ観察会
- 6.関西大学の
- 7.地域活動と商業の融合
- 8.ダスキン大阪中央工場見学報告
- 9.先進事例に学ぶトラスト運動(その2)
- 10.男女共同地域フォーラムほかイベント報告
- 11.千里ニュータウンまちびらきから50年  
吹田市立博物館 小松左京写真展
- 12.事務局よりお知らせと見学会案内ほか

# 春夏秋冬

会長 小田忠文

東日本大震災から1年が過ぎました。みなさんも義援金などで東北地方に支援をなさっていることと思います。東日本大震災に義援金を出した場合や台風12号の大雨で被害を受けた紀伊半島南部の市町村にふるさと納税という方法で数万円寄付した場合、確定申告すれば寄付金から2千円を引いた金額が税金の還付金として戻ってきます。▲それは「2千円少々出せば、源泉徴収などですでに自分が払った税金の中から被災地に数万円を送ることができる」ということを意味します。どんな税金も一旦払ってしまえばあとは政府や自治体が思うように使っていますが、この制度を使えば一部の税金は自分の希望するところに配ることができるのです。▲以上は災害被災地を支援するための寄付金の制度ですが、市民団体を支援する場合も税金が戻ってくる制度があります。それが認定NPO法人制度です。すこしやこしいのでNPO法人の制度についてお話ししましょう。▲ご存知のようにすいた市民環境会議は特定非営利活動法人、通称NPO法人です。このNPO法人の制度は1995年の阪神淡路大震災の後、ボランティア活動が目目されたことから1998年12月に「特定非営利活動促進法」という名の法律としてはじまったものです。その法律の条文の中には、寄付が集まりやすいような配慮がされた「認定NPO法人」という制度が盛り込まれていました。▲しかし「認定NPO法人」の資格取得は猛烈にハードルが高くて取得することはほぼ不可能だったのです。「この法律が大蔵官僚によって作られたことに遠因がある。もっと認定NPO

法人の数が増えるようにしなければいけない」と動きだしたのが自民党の加藤紘一代議員でした。しかし2000年11月に野党が森内閣不信任案を出したときいわゆる加藤の乱があり、その結果として加藤氏が失脚したために法律は改正されることなく存続しつづけました。▲法律が施行されて13年以上経過した今年2月末現在、全国で44,845のNPO法人がある中で認定NPO法人はわずか0.5%、246法人しかありません。加藤の乱以後はまさに「失われた10年」だったのです。2009年に首相となった鳩山さんが骨格を承認したことで今年、2012年4月1日から「特定非営利活動促進法の一部を改正する法律（改正NPO法）」が施行され、認定NPO法人の資格が以前よりは取りやすくなります。▲NPO法人が認定NPO法人になることの特典は1) 寄付した額を所得額あるいは税額どちらか有利な方で控除できる2) 法人が寄付した場合、寄付金額を損金に計上でき、その損金算入限度枠が拡大した3) 相続財産から寄付した場合、寄付分は非課税になるなどがあります。寄付する側に立てば寄付した金額のおよそ半分が戻ってきます。つまり市民が寄付という形で自分の税金の使い道をNPOに指定することができる制度なのです。▲資格が取りやすくなったとはいえ、すいた市民環境会議のような小規模の法人にとってはまだまだ敷居が高く、会費が1000円なのに年間3000円以上の寄付を50人以上、しかも毎年集めることが求められます。あるいは総予算の20%以上を寄付が占める必要があります。総予算は平均して200~300万円なので40~60万円以上の寄付が毎年必要なのです。そのような寄付をしていただけるような魅力ある市民団体になるよう心がけていきます。

<表紙の絵>

吹田の風景シリーズ (14)

## 吹田歴史文化まちづくりセンター 浜屋敷

吹田税務署に行った後 JR吹田駅から朝日町商店街あたりをぶらついた。最近ではスーパーで買い物することが多いので、商店街の店の方と会話をしながらの買物が楽しい。

このあたりは江戸時代から在郷町として発展しただけあって高浜神社や観音寺などお寺も多い。浜屋敷は旧庄屋屋敷で市に寄贈され、改修して2003年から吹田歴史文化まちづくりセンターとして利用されている。

「浜屋敷」という愛称は神崎川畔という立地と、高浜町、南高浜町の「浜」に「お屋敷」を重ねたものだとのこと。また、訪問者と施設利用者を合わせると年間3万人弱の来訪があるとのこと。

(表紙の絵と文：画楽多工房 増野 暁)

環境問題のためのアクションを「食」の観点から実行してみようと始めたエコクッキング。購入から廃棄まで、時々の気づきを加えながら発展してきました。  
(生活環境委員会 喜田久美子)

## ●2/8 吹田保健所管内集団給食研究会のエコクッキング

吹田保健所管内・集団給食研究会のエコクッキングがデュオで開かれ、生活環境委員4人(奥田・小田信・西川・喜田)が講師をつとめました。参加したのは12人。市内の企業や病院、大学や保育園などの集団調理を担当される方、管理栄養士さんや調理担当の方々です。調理はとても手早く進みました。

保温の間にライフスタイルチェックに挑戦。チェック後のインタビューでは、東北の地震後、大阪ガスの家庭用燃料電池コジェネレーションシステムを導入したという方もいました。家庭でも働く場でも省エネ意識が高くなっているようです。情報を交換できて、私たちにとっても有意義な会となりました。実施にあたっては、三野英二関大生協飲食事業部長(当時)に大変お世話になりました。ありがとうございました。



### ●アンケートから

- ・ゆで豚の肉が固かった。(ごめん。グループによって差が出たみたいですね。)
- ・節水の方法がとても勉強になりました。料理もおいしかったです。また参加したいです。
- ・ゆで豚がおいしかった。たれの作り方を教えて。
- ・食材・いいものをそろえてくださってありがとうございました。
- ・初めてでしたが、すごい簡単で楽しめました。
- ・これから、少しのことで気づいたことを行動に移します。

## ●2/25 関大・良永ゼミ+学生企画室学生たちのエコクッキング

良永ゼミ生(2年次生)14人と学生企画室の学生5人が、恒例となったエコクッキングに挑戦しました(講師:奥田・西川・喜田)。この企画は、自分たちでできる“環境に配慮した暮らし”を学ぼうと始められたもの。会場は山田の市立青少年活動サポートプラザ調理室。

まず、食材について放射能検査を経たものであることなどを話しました。ついで「ごみを多く出していないか」「水を汚していないか」など環境に配慮した調理方法を説明。この後に、4グループに分かれて調理を始めました。メニューは「ゆで豚・温野菜添え・野菜スープ」「大根と水菜のサラダ」「マスコバド糖プリン」。調理に慣れていなくても、楽しく丁寧に作ることができたと思います。



ライフスタイルチェックでは環境問題への関心の高さがわかりました。若い人たちにとって、原発事故後の日本で生きていくことは、食とエネルギーの問題に正面から向き合っていくということ。美しく健やかな土・水・空気を取り戻すために、がんばろねっ!

### ●アンケートから

- ・野菜いっぱいでおいしかった。調理実習を思い出した。楽しかった。
- ・今までムダが多くて環境に悪い料理の仕方をしたことがわかりました。気をつけます。
- ・気付かされるが多かった。様々なところで環境に影響を与えていることが分かった(2人)。
- ・調理方法だけでなく、片付けまで環境にやさしいお料理が学べ、おもしろかった。
- ・優しいスタッフのおかげで楽しいエコクッキングでした。家でも意識しながらやってみたいです。
- ・エコクッキングをすると環境だけでなく、体にも良いものになりそう(2人)。

# 紫金山公園野草(ロゼット・幼苗)観察会

生きもの委員会 平 軍二

昨年11月に続く第2回ロゼット・幼苗観察会を2月22日(水)に紫金山公園を舞台に実施しました。博物館横の梅林では紅梅・白梅がちらほら咲き始めていたものの、2~3日前に氷点下の冷え込みがあり、霜に遭ったため元気をなくしたロゼットが少なくありませんでした。



紫金山公園では毎月、モニタリングサイト1000<sup>※</sup>調査を実施中であり、紫金山の植物を知り尽くした人々を含め15名の参加があり、わからなかった幼苗も特定外来種ナルトサワギクと教えてもらうなど私にとっても収穫大でした。

紫金山公園には伊藤氏の感想文(後記)にある風景、幼いころの思い出につながるような、田んぼと里山が残っています。吹田市では殆ど見られなくなった、田んぼの背に里山のある風景が、いつまでもずっと残ってほしいとの想いを強くし観察会を終えました。

## ※) モニタリングサイト 1000

全国で1000ヶ所を選び、2004年から100年間の生きものの推移を調査するという、遠大な環境省主導のプロジェクト。紫金山公園はそのうちの1ヶ所として、吹田自然観察会が主体となって野草・蝶・野鳥の調査が行われている。

## 観察会に参加して

生きもの委員 伊藤忠征

紫金山の池と田んぼの周辺での野草観察会に初めて参加させて頂きました。今回は早春に芽吹くロゼット・幼苗の観察が中心でした。初心者の私にはいつも歩く場所の雑草という認識しかなかったもので、そこに50種類もの植物があることに、まずは驚きました。同じように見えても葉っぱの大きさや形の違いで別の種類であることや、食べて見て甘かったり、酸っぱかったり、キュウリのような味がしたりと、いろんな体験をふまえて教えて頂き、とても楽しく、新鮮な経験をすることができました。

オオバコ、セリ、ノビル、ヨメナ、ヨモギ等、昔なつかしい野草にも出会えました。そんな中で子供のころ、飼っていたニワトリのエサとして毎日採りに言っていたハコベなど、どこにでも、いくらでもあ



った野草が、今は探さなければ無いことに気づきました。生物多様性が話題になっている今、生き物の連鎖の基として野草から守らなくてはとの想いを強く持ちました。

その意気込みで、習ったことを復習しようと思いい、後日同じ場所に行き自分で探して見たのですが、悲しいことに数種類しか判別できませんでした。これを機にもっと学びたいと思いますので、生きもの委員の皆様、よろしくお祈いします。



## ツバメの巣マップが単行本に引用

いきもの委員会 平 軍二

すいた市民環境会議が2010年に調査した「ツバメの巣マップ」が、農山漁村文化協会から2012年1月に出版された単行本「田んぼの生きものたち・ツバメ」(下記)に引用されました。著者の一人、神山和夫氏にお会いしたときツバメの本を執筆中とお聞きしました。「吹田市のツバメの巣マップ」を提供したところ、マップを本に載せたいと希望され、すいた市民環境会議としてOKを出しました。記載された内容は右の通りで、簡略化してあるがツバメの巣の激減が良くわかる事例として記載されています。

この本はツバメの習性を23テーマに集約し、それに回答する形でまとめられているが、昨年鳥学会で発表されたばかりの新しい研究成果が盛り込まれるなど、ツバメの最新情報が書かれており、子供向けとはいえ大人が楽しめる本となっている。希望者は平まで。

(メール g-hira@nifty.com、又は ☎090-6901-1425)



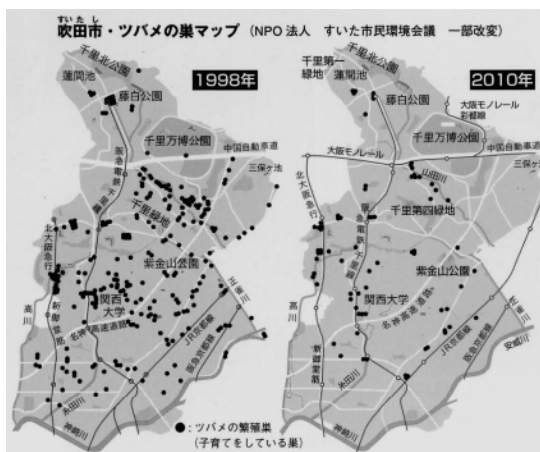
### 田んぼの生きものたち ツバメ

神山和夫 文 渡辺仁 文 佐藤信敏 文・写真

定価: 2,625 円(税込)

出版: 農山漁村文化協会(農文協)

巣作りから子育て、巣立ち、エサ捕り、飛行術、  
集団ねぐら、渡りまで 300 余枚の写真で紹介。



### 昔のツバメ地図と比較してみよう

ツバメ地図ができれば、巣が多い場所はなぜそうなのか、どこをエサ場としているのかなどを考えてみましょう。もし以前の同じ地域のツバメ地図があれば、ツバメが増えているか減っているかがわかります。さらに当時と比べて田んぼや川、道路、建物など、地域の環境の変化と、巣の数や場所の変化を照らし合わせると、ツバメがなぜ減ってきたのか、なぜ巣をつくる場所が変わってきたのかなどもわかってくるでしょう。

大阪府吹田市のNPO法人すいた市民環境会議では、上図のように1998年と2010年に調査したツバメ地図を比較したところ、12年間でツバメの巣は3割に減っていたことがわかりました。天敵のカラスの増加や、エサ場になっていた田畑が住宅地になったこと、巣が多かった商店街がさびれて人通りが少なくなったことなどが、ツバメが減ってしまった原因だと考えられるということです。

## 旧山田村の大木と、円照寺のヤマザクラ観察会のご案内

旧山田村には、民家や社寺に多数の大木が残されている。草も木も笑う爛漫の春、途中、満開のソメイヨシノを楽しみながら、阪急山田駅から円照寺のヤマザクラをめざして、旧山田村の集落を歩く。

開催日: 2012年4月12日(木)

集合: 9:30 阪急山田駅バスターミナル

解散: 12:00 頃 阪急バス山田宮の前バス停

持ち物: 樹木図鑑、あれば吹田の大木マップ

参加費: 会員 200 円、非会員 300 円

問い合わせ: 090-6901-1425 平(ひら)軍二

**円照寺のヤマザクラ:** 幹回り 288 cm (2007 年調査)。

ヤマザクラは花が先に咲くソメイヨシノと違って、葉と花が同時に開くため、満開時でもソメイヨシノのような華やかさはない。

吹田市では大木 928 本のうち、サクラ 3 種(ソメイヨシノ・ヤマザクラ・カスミザクラ)は 54 本あったが、最大のサクラは円照寺のヤマザクラであった。

円照寺のヤマザクラの樹齢は不明であるが、ヤマザクラの成長速度はクスノキなどより遅いので、樹齢 150 年以上でないかと勝手に推定している。



山田東円照寺・ヤマザクラ

# 関西大学エコキャンパスの創造と環境会議

関西大学生協同組合 50 周年記念誌

「21 世紀のエコキャンパス創造」から

生きもの委員会 平 軍二



関大生活協同組合が創立 50 周年を記念して 50 周年記念誌(3 分冊) を発行しました。このうちの 1 冊が、環境をテーマにした「21 世紀のエコキャンパス創造(関大学生・教員からの発信)木庭元晴・吉田宗弘・良永康平編」で、ここに環境会議関連の活動や文章などが掲載されましたので紹介します。

表紙裏や巻頭カラーページには、環境会議の大木調査結果をベースにした関大大木めぐりマップや、環境会議会員有川佳代子さんのご子息、有川尚志君(小学生)が 1998 年に、関大構内の里山で採集・撮影された生物の写真が紹介されています。また資料編には喜田理事・小田信子理事・塩田理事が登場しています。また、私の書いた「関大千里山キャンパスの大木から」が、環境会議の「吹田の古木・大木 vol. 1」「同 vol. 2」のマップ 2 枚を加え、全 9 ページにわたって掲載されています。

\*\*\*\*\*

## 「関大千里山キャンパスの大木から」について

再録されたこの文章の原文は関大生協の発行している季刊誌「書評 126 号」2006 年 9 月に載ったものです。大木調査の前年に実施した大木予備調査時のデータを使用して書いたもので、本調査の結果と幹回りサイズは若干異なっているものの、調査の目的と意義を明確にしています。記念誌ではこの後に、吉田宗弘教授(化学生命工学部)による「千里山キャンパスに自然はあるか……真のエコキャンパスの条件」が続き、先の有川尚志君の調査データを含め、千里山キャンパスの自然を考察されています。一番嬉しかったことは、選者の一人である良永康平教授(経済学部)により、書評に掲載された多数の論文の中から「関大千里山キャンパスの大木から」を選んだ理由が書かれていたことです。(右記)

今回、50 周年記念誌の 1 分冊として環境問題が独立して編集されたことは、①関大生協が本業において環境に配慮した業務を推進して来たこと、②関大に環境関連学部・学科がない中で環境教育講座を推進していることなどと併せ、関大に環境学を定着させるための役割を担ってきたことの証左であると思います。そんな中で、3 月 12 日に博物館横の大きなポプラ(調査時、幹回り 2 m 弱)が伐採されたということで大学キャンパス内の大木の置かれた状況は厳しいものがあります。

大学としては、学生相当年齢層の漸減傾向が続いている中で学生数減少を食い止めるため、学校設備の新築・利便性アッ

プに力を注いでおり、施設の間の緑地に残る大木は切られる運命にあります。しかし、大木は関大敷地内にある大学の資産ですが、「身近に残された自然」として他市に誇れる財産と思っている吹田市民が少なくないことを、関大当局に対し発信し続ける必要があると思います。

## 選考理由と解題

— 『書評』掲載の環境関連論文から—

良永康平

吹田・高槻・関大のアメニティー

関大や吹田・高槻の自然環境に関する論文をいくつか選考した。まず「すいた市民環境会議(NPO 法人)の平による「関大千里山キャンパスの大木から」である。すいた市民環境会議が 1997 年に行った古木・大木調査では、吹田市内で大木が最も多かったところは関大のキャンパス内で、幹周囲 2m 以上の大木が 45 本もあり、吹田市内の大木総数の約 10% を占めたとのことである。その後本稿が執筆された 2006 年の調査では、いくつかの樹木が枯れたり伐採されたりしたことが判明したが、逆に前回見逃していた木や、成長して 2m に到達した木が 20 本も見つかったとのことである。大木には様々な影響や意義があるが、吹田市が「NPO 法人社叢学会」に委託して行った調査で、関大の「キャンパス内は学舎の周りにクスノキなどの大木があることで、ヒートアイランド化が防止されている」ことを示す図表も掲載されており、「すいたの古木・大木マップ」とともに、関大の自然環境を記録した貴重な資料であるといえるだろう。今後も吹田市民の皆さんから、「関大キャンパス内の大木群は、吹田市民にとって非常に重要である。……吹田市民としては他市に誇れる、そして後世に残したい吹田市内の財産である」と言われ続けるように、古木・大木を継承して行きたいものである。

(50 周年記念誌「21 世紀のエコキャンパス創

# 地域活動と商業の融合

D I O S 北千里専門店会 会長 山本光平

D I O S 北千里専門店会が、今年 1 月 20 日に、想像すらしなかった大阪府知事賞を頂きました。今回の表彰は「平成 23 年度大阪府商工関係者表彰」というもので府下の商工会議所関係者やデザイン・運輸・金融など 11 部門で合計 306 のノミネートがありました。その中でディオス北千里専門店会は大坂府下でたった 2 つだけの「小売業団体部門」でノミネートされ表彰対象となりました。勿論小職はあくまでも代表としてお預かりしたままで、ひとえに地域や、すいた市民環境会議の皆さまのご尽力のたまものです。



◎ 毎日新聞 ◎ (夕刊) 社会

## 中学校に太陽光発電

大阪府吹田市の N P O 「すいた市民環境会議」や地元商店会が、同市立古江台中学校に太陽光発電システムの設置を計画している。年間約 2000 kWh を発電する予定で、普段は学舎の照明や携帯電話の充電など、地域で使える電源になる。3月の完成を目指す。募金活動を進めており、災害避難場所となる公共施設のモデルにもなりそうだ。

## 吹田で設置計画

太陽光発電は、同 N P O が「自然に親しむ施設」や地元の商店会が、同市立古江台中学校に太陽光発電システムの設置を計画している。年間約 2000 kWh を発電する予定で、普段は学舎の照明や携帯電話の充電など、地域で使える電源になる。3月の完成を目指す。募金活動を進めており、災害避難場所となる公共施設のモデルにもなりそうだ。

大阪府吹田市の N P O 「すいた市民環境会議」や地元商店会が、同市立古江台中学校に太陽光発電システムの設置を計画している。年間約 2000 kWh を発電する予定で、普段は学舎の照明や携帯電話の充電など、地域で使える電源になる。3月の完成を目指す。募金活動を進めており、災害避難場所となる公共施設のモデルにもなりそうだ。

ソーラーパネルの完成予想図



## 一石二鳥 非常電源 環境教育

2 億円を超える規模にまで成長致しました。

今回は「このような商業活動と地域が連携する新しいモデル事業」として再評価されたのだと思います。これからも、自分達の商売だけであった視点を地域と共に歩めるように改め「地域は地域で生き残れる」仕組み作りに一層精進したいと強く願っております。

ここにすいた市民環境会議様の卓越したご提案とご協力の結晶として府知事賞を頂戴できた報告をさせて頂きました。今後とも宜しく御願致します。

(※) ポイントシール団体還元システムともいうべき、団体として集めたシールを個人のお客様より有利な率で還元するシステム

# ダスキン大阪中央工場 見学報告

まちなみ委員会 大野和之

2011年第5回見学会として、ISO14001 認証取得している環境に配慮した工場、ダスキン大阪中央工場見学会を開催しました。亥の子谷コミュニティセンターで「吹田の郷」をみて見学会があるのを知り参加された山本さんから見学記を寄せられました。

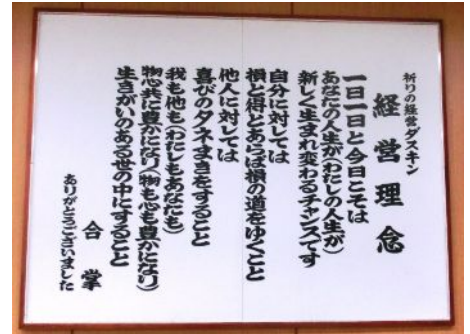
## 〜〜 見学会に参加して 〜〜

山田西 山本盛夫

2月14日(火)バレンタインの日、あいにくの雨であったが、神崎川畔にある株式会社ダスキン中央工場の再生工場を見学する機会に恵まれた。

6階の講義室で、工場長と係員からビデオを併用して工場の概要説明を受け、質疑応答の後、それぞれイヤホン装着・ヘルメットを被り、各部門へ説明を聞きながら向かうことになった。

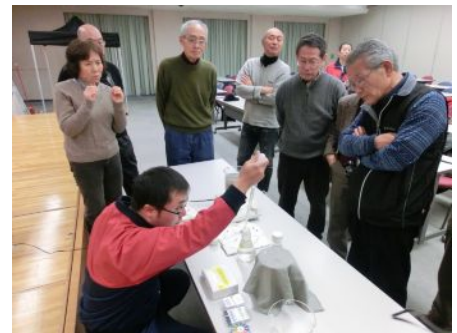
3階で入荷・仕分け工程、1階は洗濯・乾燥工程、4階の仕上げ・検査・袋詰めを見学しました。



**ダスキンの事業で取り組んでいる4つのエコ**

<p><b>くりかえし使うエコ</b></p> <p>創業当初より、お客さまの協力のもと、生産・販売(お届け)・回収をくりかえす環境にやさしい循環型の仕組みを採用しています。</p>	<p><b>みんなで使うエコ</b></p> <p>必要な時に、必要なものを、必要な人へ。お客さまとともに、限りある大切な資源を有効活用しています。</p>
<p><b>減らすエコ</b></p> <p>人と地球環境へのやさしさを考えて、独自の技術やアイデアで、薬剤の使用量や資源の無駄を減らす努力を行っています。</p>	<p><b>捨てないエコ</b></p> <p>陶器やガラスの食器を洗って使ったり、商品管理を徹底し廃棄量を少なくするなど、捨てるものをつくらない工夫をしています。</p>

6階の講座室に戻り、ダスキンモップと市販されて普通のモップとの性能比較テストと薬品を使つての排水処理の実験を見学しました。



各工程ともオートメーション化され、ダスキンの事業で取組まれている4つのエコ、「くりかえし使うエコ」、「みんなで使うエコ」、「減らすエコ」の実践に日夜努力されているフンイキをまのあたりに、満面に微笑の丁寧な説明とともに案内いただいた。

ダスキンの年次モットー「情熱と真心で実行しよう 私たち一人一人がダスキンです」どおりの対応でした。

講義室にかかげてある努力目標をかみしめながら、心洗われる思いで工場長と従業員の方々に玄関まで見送られ、「もったいない ありがとう」の言葉をかみしめながら帰途についた。





## 財団法人 天神崎の自然を大切にする会（和歌山県田辺市）

まちなみ委員 松岡要三

この運動には敵があつてはならない。みんなこの運動の理解者になって天神崎の自然を大切にしていきたい。そのような思いで「守る会」でなく「大切にする会」と命名されました。

1987年に日本での自然環境保全法人第1号に認定されています。

### 1. 天神崎の自然

天神崎は田辺湾北側の岬で白浜温泉の対岸にあります。丘陵の自然林が潮風に耐えて生い茂り、海は直接太平洋につながり、磯には干潮時には13haの広い岩礁が広がります。天神崎の自然の特徴は、自然林の動植物と海の動植物が平たい岩礁をはさんで同居し、海・磯・森が一体となって、一つの安定した生態系を形づくっていることです。

（右の写真と右下のマップは会のリーフレットより引用）

### 2. 運動の歩み

1974年1月、天神崎に別荘地造成の許可申請が県に出されているのを知った元高校教師外山（とやま）八郎氏ら有志は「天神崎の自然を大切にする会」を設立し、天神崎の保全を訴える16000名の署名を集め（当時の田辺市の人口は7万人弱）、県と市へ陳情する。事業者側は計画を縮小して再申請したので県は受入れの姿勢で、業者から土地を買い戻すより道はないと買い取り運動「熱意表明募金」を75年3月に始める。76年10月2,390㎡を350万円で買い取る。県・市の補助もあったが、借入金に頼るなど買い取り計画は困難を極めたが、82年に朝日新聞天声人語やNHKテレビでの紹介、83年田辺市で開催された第1回ナショナルトラスト全国大会を通じて全国から募金が集まり85年11月第4次で最後の取得を終える。

その後、市の買い取りを含め2004年第17次までで73,151㎡（右マップの保全地A～S）を取得しています。

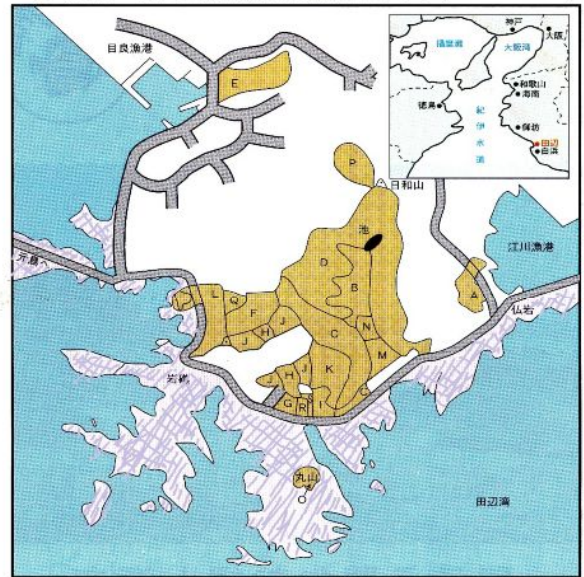
### 3. 運動のリーダー外山八郎と郷土の先駆者・南方熊楠

外山八郎（1913～1996年）は大学卒業後企業に務めるが2度に渡って結核を患い帰郷して天神崎近くで療養生活を送った。1948年に社会復帰をとげ田辺高校、田辺商業高校の教師として奉職した。郷土の先駆者・南方熊楠が自然保護にも力を注いだこの地と長い闘病生活後の天職としての教員生活に育まれた人生感からくる信念と行動に幅広い共感が集まり運動が広がりました。

田辺市には南方熊楠顕彰館・南方熊楠邸もあります。それらと天神崎とを巡るエコツアーをして見ませんか。



### 天神崎自然環境保全地(A～S)



ハatched部分は、岩礁地(磯、潮間帯)で、買い取りの対象地ではありません。岩礁地はすくれた景観と豊かな生物相をもち、買い取りをすすめている海岸林とともに、保全すべき大切な場所です。



2012. 3. 1 筆者撮影

## 男女共同参画地域フォーラム 講師：片寄俊秀 大阪人間科学大学教授 あれから1年～防災と地域コミュニティ～

まちなみ委員 井上衣子（男女共同参画センター 参画スタッフ）

参画スタッフは、男女共同参画社会の実現に向け、市と協働してさまざまな活動を進めています。防災と地域コミュニティを考える地域フォーラムを豊一市民センターで開催することになり企画にも関わりました。昨年9月に開催された当環境会議の第1回環境楽座『地震、津波が来る前に』（吹田の郷 77号掲載）に参加出来なかったため、片寄先生のお話を聞きたいと講師に推薦したところ、ほかにも候補がおられました。片寄先生に決まりました。3月9日雨にも拘わらず、このフォーラムを知った当会の理事3人が参加され、合計24名（女性10名、男性14名）の参加でした。

### 講義の内容と展開

1. いいまちってどんなまち？
2. 安心・安全なまちを求めて
3. いよいよ、大阪が危ない
4. 防災+ぼうさい 2段構えで
5. グループワークみんなで考える  
「いいまちをつくるには」

ユーモアを交えた話ぶりの講義を受け、その内容をベースに40分間のワークショップを行いました。発表者に若い学生がいたり、講評につづき多数の質問が出され、楽しく学んだ講座は時間ギリギリまで続けました。

講義の内容で印象に残ったことを紹介します。①では「いいまちづくりが防災の基本」、「愛する人がいる、安全な、泥棒がいない、医師がいる、元気な子ども、お年寄りに親切なまち」。②では、大災害にまで拡大する「拡大要因」が根絶すべき課題で、拡大要因としては乱開発と森林保全の放棄、地下街、超高層ビル、中でも原発は最悪の拡大要因。災害に弱い人間が増えていることも問題。③では、6mの津波が想定され浸水が広範囲に及び、特に地下街が危ない。④では、お祭り、イベント、キャンプが防災に強い人間を育てる。これら全てが防災訓練。

## 吹田市市民公益活動人材育成講座「わたくしにもつくれる！ NPO（2）」 当会が事例発表しました

市民の市民公益活動への自主的参加を促し、また市民公益活動をおこなっている方々の能力の向上を図るための講座です。この講座は吹田市市民文化局市民協働推進室が講座開催団体を公募しそれに応じた「NPO法人市民ネットすいた（略称 CNS）」により、2月4日「おながく・さーくる・コスモス」の活動拠点（吹田市泉町2）で開かれました。

すいた市民環境会議小田会長が当会の設立経緯や組織、設立（1997年）から現在まで15年間の活動、他団体との連携活動や市への提言などを、42枚のパワーポイントで詳しく紹介しました。NPO法人音楽療法推進会「おながく・さ〜くる・コスモス」も内部見学会を行いつつ、法人の設立経緯や悩み・喜びを語りました。（会報委員 松岡要三）



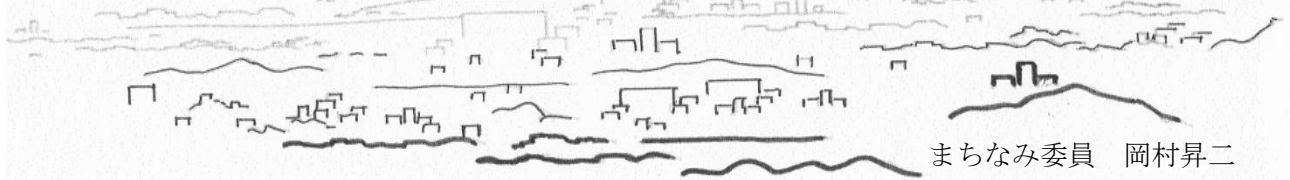
## NPO法人市民ネット(CNS)主催 市民公益活動団体交流会 『吹田の自然環境の現状と環境NPO活動の課題を語ろう』

吹田市の公園や緑地の保全活動をおこなっている4団体が2月19日、山田駅前の夢つながる未来館に集まり、交流会が開催されました。参加したのは紫金山みどりの会、ヒメボタルの生息する高町池周辺の千里緑地で活動する吹田みどりの会、北千里公園の箕面市との境界の緑地で活動するNPO法人すいた環境学習協会里山クラブ、桃山公園などで活動する



千里竹の会の会員ら約20名で、各団体の活動紹介からはじまり、吹田市との関係、市の支援、各団体が抱える課題などが話し合われました。（まちなみ委員 岡崎強一（千里竹の会会員））

# 千里ニュータウンまちびらきから 50 年 記念事業開催のため実行委員会がスタート



まちなみ委員 岡村昇二

(千里ニュータウン記念事業実行部会)

全国初のニュータウンが千里丘陵でまちびらきしたのは、昭和 37(1962)年で、今年は 50 周年を迎えます。過去を振り返り、将来を見据えるために市民が中心となって記念行事を計画しています。4 月からニュータウンの現状を再認識するためウォークイベントを始めます。主な行事は、まちびらきの行われた 9 月 15 日から始まり 11 月末にかけて、ニュータウン内の各所で開催されます。

## 1. 千里ニュータウンは壮大な実験都市

我がまち千里ニュータウンは、高度成長期に莫大な社会資本と英知を集めた実験都市です。ハワードの田園都市論、ペリーの住区論などの実験都市であり、具体的には、緑地、道路、公共施設の配置や、歩車分離・クルドサック(袋型道路)などの安全な道路造りがありました。

時を経て、商業施設、年齢層の偏りから来る急速な高齢化、老朽集合住宅の一斉立て替え、コミュニティの有り様などの課題があり、実験が続いているといえます。

千里ニュータウンが行く道を、他地区は注目しています。将来に向けた良いまちづくりに励みたい、広く社会の都市づくり、生活づくりの参考に供しなければと考えます。

## 2. 記念事業開催に向けて 企画委員会から実行委員会

昨年 4 月、大阪府、吹田市、豊中市の呼びかけに応じて集まった市民 20 人と行政担当で企画委員会が発足し、人々・世代・地域・心を「つなぐ」をキーワードに各種行事が企画されました。本年 2 月には実行委員会、実行部会ができ、事業の準備を進めています。

主な行事予定	
・千里ニュータウン ウォーク	4 月から
・オープニングセレモニー	9 月 15 日
・タイムスリップ展	9 月
・フェスティバル	10 月
・フォーラム	11 月
・その他団体による冠イベント・商業祭	

千里ニュータウンウォーク	
参加者募集 予約不要 参加費無料	
第 1 回 千里中央さくら満喫コース	
日 時	4 月 8 日(日) 10 時~12 時頃
集 合	千里中央・北広場コラボ前
第 2 回 新緑の南千里緑地コース	
開 時	5 月 12 日(土) 10 時~12 時頃
集 合	阪急南千里駅改札前

## 吹田市立博物館 小松左京写真展『宇宙に翔く夢』開催中 4月22日まで

まちなみ委員 松岡要三

昨年 7 月に亡くなられた知の巨人・小松左京の写真展『宇宙に翔く夢』が開催されています。3 月 18 日(日)にはフォーラム「小松左京を語る」、3 月 22 日(火・祝)にはフォーラム「ラジオの時代」が開催され、多くの人が集まり、小松左京さんの博識、並外れの人生についてのパネリストの話に聴き惚れました。早速吹博のブログに掲載されています。ブログも面白いですよ。



<http://sui-haku.at.webry.info/>

新発見の貴重な資料が本邦初展示でマスコミからも注目されています。またイベントも 22 日まで続きます。博物館に出かけませんか。小松ロケットのペーパークラフトのおみやげもあります。私にとって、小松左京は未来学、万博テーマ館のサブプロデューサーとしての印象が強くありましたが、昨年の 3.11 以降小松左京の小説を読み返しています。彼には「想定外」という言葉がありません。「復活の日」、「首都消失」、「継ぐのは誰か」、「こちらニッポン」もお勧めです。



## 会計・事務局よりお知らせ

### 多数の方から寄付を戴きました。有難うございます。

(2011年7月16日から2012年3月28日までの分。前回、第76号2011年8月で報告)  
古屋美代子様ほか 合計18名で134,000円  
その他にディオス北千里専門店会のゆめシール(7頁参照)13,000円相当分  
(会計 小田信子)

### 第13回 通常総会のご案内(詳細は6月号でお知らせします)

日時:6月23日(土)午後2時より 場所:勤労者会館大研修室  
総会終了後講演会(終了予定5時)と懇親会(終了予定8時)を予定しています。

### 2012年度会費納入のお願い

- ・同封の振込用紙で振込下さい。
- ・封筒の宛名ラベル(右)に記入の年度分までの会費が納入済みです。
- ・出来れば寄付も合わせてお願いします。  
(事務局 中村小夜子 TEL 090-8375-0647)

565-0851

吹田市内本町

○丁目××-△

環 境 太 郎 様

正会員 11年度

## ~~~~ 見学会のご案内 ~~~~

### 北越紀州製紙(株)大阪工場

かつて神崎川畔には、多くの製紙工場が立地していました。公害問題等もあり時代の流れには逆らえず、姿を消していった工場もありました。そんな中今も操業を続けている北越紀州製紙の工場を訪ねます。

【開催日】 2012年4月19日(木)

【集 合】 吹田市役所玄関前 9時15分集合 12時頃解散

【参加費】 会員200円 非会員300円

【申込先】 金指(かなさし) TEL(留守電)/FAX:06-6310-7333

E-mail kanasashi@sutv.zaq.ne.jp 携帯-mail kinsan1717@k.vodafone.ne.jp

### 津雲配水場のつつじ

新しく生まれ変わった佐竹台地区の府公社住宅や関西大学国際部の施設などを見て、千里南公園の新緑をめで、大阪第一国際交流会館を経て、美しく咲き誇る満開のつつじを觀賞しながら、各自持参したお昼を楽しんで下さい。

【開催日】 2012年5月2日(水)

【集 合】 阪急南千里駅改札口 9時30分集合 12時頃解散(配水場)

参加費・申込先は上記に同じです。

#### <編集後記>

今号も会員の幅広い活動を紹介することが出来ました。10頁で小田会長が当会の活動をNPO法人の活動事例として発表したことに触れましたが、当会の活動の特色として他団体との連携活動が多いことです。また理事や委員会の委員が他の団体の委員になって活躍し、吹田市の市民活動の大きなネットワークづくりに貢献していることです。今、「新しい公共とは」や「市の役割と市民の役割」、「コミュニティとは」などが議論され、市民活動の新しい展開が期待されています。当会の博物館イベントへの参画や関大との連携などはその先駆けとして誇れるのではないのでしょうか。より多くの会員がこれらの活動にかかわり、会報で紹介できることを楽しみにしています。(会報委員 松岡要三)